

# 東日本大震災被災地支援アーカイブ

## ～大震災から10年、継続している支援～



国際ロータリー第2580地区社会奉仕委員会

2021年3月8日

国際ロータリー第2580地区社会奉仕委員会は、2020年6月16日から2020年8月13日まで「社会奉仕事業アンケート」を実施し、東日本大震災被災地支援の状況について調査を行いました。さらに、2021年2月、支援を継続しているとしたクラブに再調査を行いました。

国際ロータリーとは経営者と専門職、地域社会のリーダーが集まる国際的組織です。世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています。第2580地区とは東京北部と沖縄をエリアとして、70クラブがあります。

### 1. 被災地支援事業の継続

東日本大震災から10年が経過します。マスコミなどはその記憶の風化を喧伝していますが、アンケートによると、13クラブが東日本大震災被災地支援事業を継続しているとしています。支援地域としては、大船渡市、陸前高田市、気仙沼市、南三陸町、女川町、石巻市、いわき市、浪江町などとなっています。なお、2012年実施のアンケートでは、34クラブが東日本大震災被災地支援事業を実施しているとしていました。

### 2. 被災地支援事業の分類

継続している東日本大震災被災地支援事業を分類すると、①人材育成、②寄附・寄贈（子どもを対象とするものと、地元産業の復興を対象とするものがあります）、③子どもへ成長の機会を提供（東京にてイベントを実施）となります。また、④東日本大震災

被災地の食材を東京の子どもに提供するというような発展型も生まれています。

なお、国際ロータリー第2580地区は「ロータリー希望の風奨学金」事業へ協力しています。当事業は東日本大震災で保護者を亡くした災害遺児で大学生（短大生を含む）または専門学校生へ返還義務なしの奨学金を給付しています。

#### （1）人材育成

##### ①東京ロータリークラブ

「東北すくすくプロジェクト」



気仙沼、陸前高田、浪江、東松島等の子育て支援施設を対象とし、各施設でのコミュニティプログラムや人材育成プログラム、イベントのサポートをしています。なお、10年プロジェクトとして取り組んでおり、2020-2021年度が最終年度となります。

下記、詳細となります：

東北すくすくプロジェクトは母子支援活

動において人事育成と被災地の支え合うコミュニティ作りを目的とし活動しています。このプロジェクトは東京ロータリーの100周年に向けてのプロジェクトであり2020-2021年度がその最終年度となります。震災直後より活動を開始し最初に陸前高田市に子育て支援施設「あゆっこ」の整備を行いました。その後、気仙沼に同じくコミュニティ施設として「気仙沼すくすくハウス」をグローバル補助金プロジェクトとして整備し、その施設で多くのコミュニティプログラム、人材育成プログラムを実施しました。気仙沼すくすくハウスの利用者は年間延べ3000名を超えています。このほか、東北すくすくプロジェクトでは東松島や浪江町のコミュニティプログラムや人材育成プログラム、イベントのサポートをしています。プロジェクト終了後2021-2022年度において報告書の作成及び報告会を実施の予定です。

## ②東京板橋セントラルロータリークラブ



「ローターアクト有志が立ち上げた気仙沼仕事創出プロジェクトの支援」

気仙沼の水産加工会社、高校生を対象とし、気仙沼の水産加工品の東京圏への販路開拓のサポートと、高校生や水産加工会社の経営者を対象とするマーケティング講座などを開催しています。今後も継続の予定

です。なお、ローターアクトとは20代を中心とする青年部的な組織です。

下記、詳細となります：

東京板橋セントラルロータリークラブは「気仙沼仕事創出プロジェクト」へのサポートを継続しています。気仙沼仕事創出プロジェクトは、2012年3月、ローターアクト有志により立ち上がりました。気仙沼の水産加工品の東京圏への販路開拓と、これができる人材の育成を行っています。具体的には、①気仙沼の高校生を対象とするマーケティング講座「気仙沼フードマイスター講座」を開催しています。地元の水産加工業について経営者からレクチャーを受けることで知り、また、ターゲットやパッケージデザインについて実践的に学びます。水産加工品を使ったアレンジレシピ（一手間レシピ）の考案・調理・試食・プレゼンテーションも行います。前年度からは水産関係の若手後継者を対象とし、城西国際大学大学院国際アドミニストレーション研究科にご協力いただいています。また、②水産加工品の定期購買「買おう！ Made in 気仙沼」（現在、52口のお申込みをいただき、4社にご協力いただいています）、③東京圏の経営者・士業を対象とする「気仙沼を食す会」（現在までに54回開催しています）も行っています。なお、現在、ローターアクトの世代交代が進み、卒業生により事業の実施が行なわれています。

（2）寄附・寄贈（子どもを対象とするものと、地元産業の復興を対象とするものがあります）

## ①東京神田ロータリークラブ

「児童養護施設への寄附」

旭が丘学園（気仙沼市）、大洋学園（大船渡市）を対象とし、毎年度、会員が訪問し、

寄附金をお届けしています。2021-2022 年度まで継続予定です（10 年間、継続となります）。

新型コロナウイルス対策として「防護服支援プロジェクト」事業を行いました。上記の児童養護施設への支援を継続的に実施している縁で、気仙沼の方々にご協力していただけました。2021 年 1 月時点にて、全国 219 か所の医療機関、高齢者施設に 81000 着を超える防護服を無償で提供することができました。東日本大震災にて支援を受けていた方々が支援を行う側となりました。ロータリークラブがその機会の提供、かけ橋となりました。「発展型」といえます。

## ②東京城北ロータリークラブ



「宮城県石巻市前網浜地区復興支援」

宮城県石巻市前網浜地区を対象とし、支援金、漁協の港湾・漁船などの機材の修復をしています。今後も継続していきます。

## ③東京北ロータリークラブ



「東日本大震災被災学生支援」

気仙沼ロータリークラブが取りまとめている支援奨学金の一部を毎年寄付し、贈呈式にも参加して学生を激励しています。

下記、詳細となります：

2021 年 2 月 1 日（土）、気仙沼ロータリークラブにて行われた創立 60 周年記念式典・育英奨学助成金交付式に当クラブから 9 名にて出席しました。例年の数倍と思われる規模での記念式典、助成金交付式が行われました。助成金交付式では前年まで 4 名だった生徒が、60 周年事業として 8 名に拡充されました。男子 3 名、女子 5 名。震災時小学生だった彼らが目指す道は困っている人を助ける、経験を人に伝えるといった目標が多く、看護師、保育士、体育教師、医学療法士、栄養士、経験を伝えるために漫画家を目指すといった、みな志高い夢と目標を掲げておられました。彼らの共通点は、気仙沼に戻り地元のために役立ちたいというスピーチでした。

## ④東京ベイロータリークラブ

「保育園への花火やお菓子の寄贈」

宮城県南三陸町の保育園を対象とし、花火やお菓子を寄贈しています。10 年目の本年度（2020-2021 年度）で一旦終了予定です。

## ⑤東京田無ロータリークラブ



「宮城県女川町復興支援」

宮城県女川町を対象とし、支援物資を送

っています。なお、継続する予定です。

下記、詳細となります：

2011 年以來、女川町を訪問し続け高齢者世帯を中心としてこれまでに 1 トンを超える食料品を届けてきました。また、ロータリー希望の風奨学金の説明のために宮城県内 13 校の高校を訪問してきましたが、それらの学校の奨学金対象者は現在 60 人を超えています。2020 年は新設された女川町立女川小中学校に電子黒板一基を寄贈しました。新型コロナが収束すれば 10 年の節目の今年、再訪を予定しています。

(3) 子どもへ成長の機会を提供

#### ①東京浅草中央ロータリークラブ



「フラフェス in 浅草」

いわき総合高校、平商業高校のフラダンス部を対象とし、浅草神社神楽殿にて東日本大震災の復興祈願の奉演を行っています。なお、継続する予定です。

下記、詳細となります：

福島県いわき市の高校生フラガールたちを招き、フラフェス in 浅草というイベントを毎年行っております。本事業は当クラブの社会奉仕活動の一環であり、東日本大震災被災地復興支援及び社会貢献を目的と

しています。彼女たちを浅草に招聘し浅草の地にてフラを披露する機会を設け、その活動を浅草はじめ都内の人々や全国・全世界から訪れる観光客の方々に周知すると共に、彼女たちの想いと行動に対する支援を行い、浅草地域から被災地への更なる継続支援の輪を広げています

#### ②東京本郷ロータリークラブ



「少年少女野球大会 in 東京ドーム」

クラブの東日本大震災支援事業として被災地の子どもたちと東京の子どもたちの交流を目的とし東京ドーム野球大会を 3 年間の期限で行うということで始めました。継続の運営を引き受けてくれたのがクラブ会員の事業所でした。その事業所も組織を一般財団法人と変更され引き続き連携をとっております。現在、新型コロナの影響により開催を見送っている状況です。開催が叶えば、これまで同様に当クラブは後援をし、クラブ会員はアイサーブにより大会に寄附や試合観戦をします。

(4) 発展型

#### ①東京お茶の水ロータリークラブ

「千代田こども食育支援プロジェクト」

NPO 法人 MLT こどもプロジェクトを対象とし、千代田区の支援制度の狭間に陥っている子どもたちに、福島県の食材を提供し、

食育のサポートをしました。現在、新型コロナウイルス感染拡大により、NPO 法人 MLT 子どもプロジェクトが休止の状態です。活動が再開次第、継続支援予定です。

#### (5) 追記

2021年2月の再調査にて、下記の支援も行われていることがわかりました。

##### ①東京新宿ロータリークラブ

「笑顔プロジェクト  
／気仙沼図書館に震災関連図書を寄贈する」

東日本大震災の事実を記載した書籍を寄贈し、当該書籍を気仙沼に限らず、全国に貸し出しを行ってもらい、読むきっかけを作り、将来にわたる記録伝承を促します。震災当時小さかった子どもが大きくなり、震災の事実を理解できる年齢となってきました。また、新しい震災にかかわる事実もその後わかってきています。被災地はもちろんのこと、震災の記録を伝承していることは重要なテーマとなっています。

##### ②東京リバーサイドロータリークラブ

「釜石へのスポーツ関連支援」

東日本大震災後に被害にあった釜石へスポーツ関連への支援と2年に1度当クラブ会員15名ほどで釜石を訪れ、現地の活性化にも努めてきました。コロナ禍での自粛により、本年度は訪問をとりやめ、ラグビーボールの寄贈を行いました。

### 3. まとめ

東日本大震災から10年が経ちます。これを節目に支援を停止するクラブがある一方、今後も継続するクラブもあります。

かさ上げ工事、区画整理、防潮堤工事、自動車道、大型施設の新築などインフラの復旧は一段落しました。しかしながら、被災地に住む方々の経済や生活の復旧はまだまだ

これからです。モノではなくヒトへの支援が求められているのではないのでしょうか？ また、人口減少が課題になっていた地域がさらに深刻化しているといえるのではないのでしょうか？ いくつかのロータリークラブはこれらの点について、現地を訪問し、つながりを継続する中で、人材の育成、子どもたちへの支援を行っています。

新型コロナの影響は復興途上の被災地に大きく現れています。また、支援イベントの中止などにより、本年度の支援事業を見合わせる／変更するクラブもあります。このような状況ではありますが、新型コロナの収束を待ち、前向きに、そして、被災地とのつながりを大切にしています。